

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

記述・論述併用

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

例年通り大問は3題であるが、解答個数は昨年の41から40に減少した。そのうち、記述問題の解答個数は25で、昨年の26に比べて減少した。大半はオーソドックスな問題であるが、いくつか難問もみられた。一方、論述問題の総数は15で、昨年と同じであった。また、解答欄の行数からみれば、昨年の計34行から計33行への微減であった。例年通り、すべて字数不定の問題で、1行～3行で答えさせる形式である(1行の字数の目安は30～35字)。設問数は微減で、分量は変化なしとした。

大部分は教科書をしっかりと読みこんでいれば解答できるが、一部には深い理解を必要とする問題、図や設問を正しく理解しなければならない問題がみられた。以上の諸点をふまえ、難易度は変化なしとした。

出題の特徴や昨年との変更点

記述・論述ともに例年と同じく、西洋史と東洋史の両方から、時代的には古代から近現代にかけて、分野的にも政治・経済・文化から広く出されることが出題の特徴といえる。昨年との変更点として、4行の論述問題が出題されず、また昨年にはなかった空欄補充が復活した。図を使った問題と指定語句を使った問題が出題された。

新課程を踏まえた出題

大問1の問7は、教科書の知識だけでは十分に解答できず、図の内容をしっかりと読み解かなければならない出題であった。また、論述問題には、設問中ですでに歴史用語があげられているため、用語に頼らずに説明する能力が求められる出題もみられた。

その他トピックス

2024年実施北大オープンで、本試大問1問9と同様の出題があった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述・論述	キリスト教とイスラーム教の布教	問7の(イ)は、ヴァイキング船の知識はあるかもしれないが、「陸の技術」も問われているので、図の読み取りが必須である。問8は、海外布教を促した状況が問われているので、ヨーロッパの当時の宗教事情を優先して挙げたい。ただし、対抗宗教改革(カトリック改革)に言及しても可である。	やや難
2	記述・論述	明清時代の中国	問1の空欄Bで、李自成の乱は農民反乱だが、李自成自身は農民ではないため、判断に迷った受験生もいたかもしれない。問2は、海禁政策という語は問題文に示されているので、その内容を具体的に書くことが求められている。問5は、文章中に「世界的な商業の活発化や、交流の拡大の影響を受け」とあるので、解答ではこれらへの言及は求められていないことに注意。	標準

3	記述・論述	帝国の解体と国民国家の形成	問2は、さまざまな共通点が指摘できるだろう。問4について、民族自決の理念を唱えた人物は複数考えられるが、文章からパリ講和会議の指導的理念となった十四か条を提唱したウィルソンと判断した。問6について、イスラエル国家の成立を1948年の建国宣言とすると、その後におきた第一次中東戦争をどのように位置づけるのか迷った受験生もいただろう。問8について、当初はムスリム・クロアチア人とセルビア人の対立であったが、その後、ムスリムとクロアチア人も対立し、セルビア人も含めた三者が対立するようになったので、判断に迷った受験生もいただろう。	難
---	-------	---------------	--	---

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・ 論述対策：ふだんから30字～120字程度の論述問題をくりかえし練習しておくこと。例年、文化史の分野から思想や宗教関連の出題がみられるので注意すること。ある歴史的事実の背景、経過、結果、影響、意義など因果関係を説明させる問題がかならず出題されるので、そのようなタイプの問題に慣れておくこと。基本的な用語や概念を説明させる問題もかならず出題されるので、しっかり対策しておくこと。
- ・ 地域対策：イスラーム史、アフリカ史、南北アメリカ史からの出題も多いので、苦手にせず、よく対策しておくこと。中国史は毎年かならず出題されるので、対策を怠らないようにすること。また、清代はこれまで頻繁に出題されているので注意すること。
- ・ その他：専門用語の漢字で覚えていないものがあれば、正確に書けるようになるまで練習すること。第二次世界大戦以後の戦後史についても、重要テーマを中心に基礎的事項を整理して記憶しておくこと。